

2014年5月15日 掲載

物流ニッポン

第一貨物&久留米運送

幹線車の相互利用拡大

東北―九州小口輸送 1日2便体制に

第一貨物(武藤幸規社長、山形市)と久留米運送(二又茂明社長、福岡県久留米市)は8日から、東北―九州の小口貨物輸送で、幹線車(便)の「乗り継ぎ輸送方式」を1日2便体制に拡大した。新たに、第一貨物山形支店(山形市)と久留米運送の飯塚支店(福岡県飯塚市)間で開始したもので、リードタイムを短縮す

るとともに、ドライバーの労働時間改善などを図る。両社は、昨年10月から幹線車の相互利用を開始。第一貨物は天童支店(山形県天童市)から九州向け貨物を、久留米運送は飯塚支店から東北向け貨物を積載し、両社の北大阪支店(大阪府茨木市)で、ドライバーが相互に車両を引き継ぎ、それぞれ発店に持ち帰

り運行する。第一貨物、久留米運送、トナミ運輸(綿貫勝介社長、富山県高岡市)の3社は幹線輸送を合理化するため、共同運行会社ジャパン・トランス・ライン(JTL、坂田昭雄社長、東京都江東区)を設立。今後はトナミ運輸を含め、3社による相互利用便の拡大を目指す。(高木明)